

## 発信する力を育成するための指導について ～相手に伝えるための学習活動～

和 崎 公 与

## はじめに

2010年に行われたTOEFL (Test of English as a Foreign Language = 「外国語としての英語のテスト」) の結果ではアジア内の順位は30か国・地域の中で27位であった。四つの領域の中でReadingの成績はアジアの国・地域の平均並みであるが、それ以外の三つの領域では平均点が低い。その中でもSpeakingの成績はアジアの国・地域の中で最下位であった。(表1)

また、平成21年3月に告示された新学習指導要領の外国語科の改訂では、中央教育審議会の答申を踏まえ、次の四つの基本方針に基づいて、改善が図られた。

	国・地域	Reading	Listening	Speaking	Writing	Total
1	シンガポール	24	25	24	26	98
2	インド	23	23	23	23	92
3	マレーシア	22	22	21	24	88
	パキスタン	21	22	23	23	88
	フィリピン	21	22	23	22	88
9	韓国	21	20	20	21	81
16	中国	20	18	18	21	77
22	マカオ	18	18	18	20	74
	ミャンマー	17	17	19	20	74
24	アフガニスタン	15	17	21	19	73
	モンゴル	17	18	19	19	73
	ベトナム	18	17	18	20	73
27	日本	18	17	17	18	70
	アジア30か国・地域	18.6	19	20.2	20.6	78.4

(表1) 2010年TOEFL結果

- 自らの考えなどを相手に伝えるための「発信力」やコミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力などの育成を重視する観点から、「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどを結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう、4技能を総合的に育成する指導を充実する。
- 指導に用いられる教材の題材や内容については、外国語学習に対する関心や意欲を高め、外国語で発信しようの内容の充実を図る等の観点を踏まえ、4技能を総合的に育成するための活動に資するものとなるよう改善を図る。
- 「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4技能の総合的な指導を通して、これらの4技能を総合的に活用できるコミュニケーション能力を育成するとともに、その基礎となる文法をコミュニケーションを支えるものとしてとらえ、文法指導を言語活動と一体的に行うよう改善を図る。また、コミュニケーションを内容的に充実したものとすることができるよう、指導すべき語数を充実する。
- 中学校における「聞くこと」、「話すこと」という音声面での指導については、小学校段階での外国語活動を通じて、音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度等の一定の素地が育成されることを踏まえ、指導内容の改善を図る。併せて、「読むこと」、「書くこと」の

指導の充実を図ることにより、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の四つの領域をバランスよく指導し、高等学校やその後の生涯にわたる外国語学習の基礎を培う。

これらの方針のもとに、中学校においては、身近な事柄について一層幅広いコミュニケーションを図ることができるようにするため、授業時数の増加（各学年とも年間105時間から140時間に増加）が実施され、指導する語数は増加（「900語程度まで」から「1200語程度」）された。

グローバル化がますます進んでいく中で生活していくためには、英語で自分の思いや考えを発信していく力が必要だと考える。学校での英語の授業時間は増えたが、学習した英語の表現を使用できる生徒は決して多くない。これは、私たちの日常生活の中では英語を使う機会が少ないということも考えられる。発信する力を育成するために、授業の中で英語を用いて表現する機会をできるだけ多くつくっていくことが不可欠である。そこで、生徒ができるだけ多くの英語に触れ、英語で自分の思いや考えを発信する力を育成するための英語科学習の実践に取り組むこととした。

## 1. 研究の仮説と視点

### (1) 目指す生徒の像

既習の文構造や語（句）を基盤とし、生徒が自分の思いや考えを発信できる力を育成することを目指したい。生徒が自分の思いや考えを表現できるように、言語材料（英語で自分の考えや思いを表現するための語（句）や文構造など）のことはもちろん、非言語材料（言葉以外の表情や声の大きさ、説明するための図など）の面も生徒に意識させたい。

### (2) 研究の仮説

次の視点に基づいて英語学習をしていくことで、生徒が自分の思いや考えを発信することのできる力を身につけることができるのではないかと考えた。

- 視点① マッピングやメモを活用した表現活動の設定
- 視点② 振り返りを活用した学習課題の設定
- 視点③ 自分の思いや考えを相手に伝えるための学習課題の設定

### (3) 研究の視点

学習したばかりの文法構造を必ず1文は用いるなどの条件を指定し、絵を見ながら絵に合った話を英語で表現するという活動を1年生の後半から行っていた。絵を見てすぐに話を想像して英語で表現できる生徒にとっては苦にならない活動であった。しかし、学習する文法構造は少しずつ難しくなり、文章も長くなっていく中でこのような活動を難しいと感じる生徒が増えていった。そこで、表現活動を行う前に生徒に想像させ、整理をする時間が必要だと考えた。また、普段の活動からマッピングやメモを取るなどの活動を取り入れる必要があると考えた。視点①については、生徒が表現活動を行う前に自分の頭の中を整理するためにマッピングやメモをとる活動を組み込むことで、話の流れが把握しやすくなり、より明確になると考えた。

マッピングやメモをもとに英語で話したり、書いたりし、そこで活動を終えるのではなく、自分の作品を再度見直したり、友達の作品からどのように表現すればより相手に伝わりやすい英文になるのかをクラス全体で共有する学習課題の設定をする。視点②では、振り返りを活用した学習課題を設定することで、生徒の作品がよりよい作品になると考えた。

視点③では、視点①や②で学習したことを踏まえ、自分の思いや考えを相手に伝えるために、さらにどのような工夫をすることが必要なのかを考える時間を設定する。自分の姿を客観的に評

働いたり、友達から評価を受けたりすることで、より相手が興味をもって話を聞いてくれるようなパフォーマンス力やよりよく英語で表現する力を身につけさせたい。

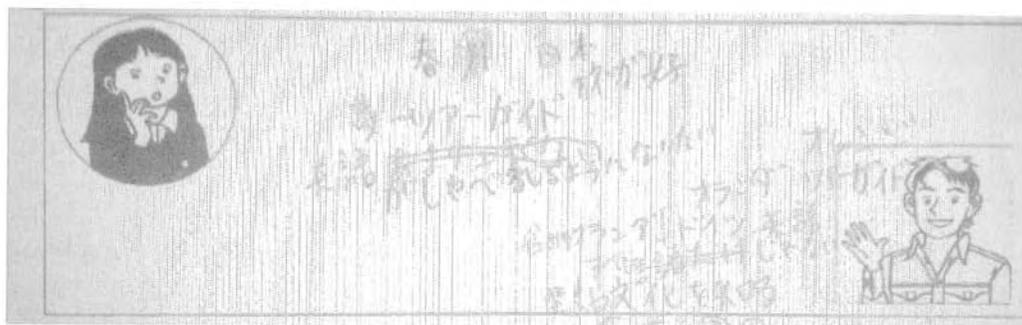
## 2. 研究の実際

### (1) 視点① マッピングやメモを活用した表現活動の設定

次に挙げるのは、Reading for communication (New Horizon Book 2) のページでのメモの活用例と生徒の作品 (資料 1) である。

#### (活動例 1)

1. 本文の新出語句や基本文を学習し、それを用いて練習する。
2. 教科書を閉じたまま、本文を聞きメモをとる。
3. 自分で書いたメモを基に、英文を再構築する。



Spring is from Japan. She likes to travel. She wants to be a tour guide. So she needs to speak English to be a tour guide. So she asked, "How can I speak English well?"

Orange answered that question. Orange is a tour guide. And he lives in Holland. He can speak Dutch, German, and English. He told her, "You should know culture and history of different countries."

(資料 1) メモの活用と生徒作品

本文を聞きながらメモを取り、自分がメモしたものを基に文章を組み立てていく。このように、メモをとることで、本文の内容を確認することができ、本文中のキーワードが絞られていく。また、文章を再構築することにより、自分の伝えたいことを表現する必要性がでてくる。このような活動を繰り返していき、表現活動を苦手と感じる生徒は少しずつ減っていった。聞く活動からメモを取り、それを再構築していく活動だけではなく、少し長めの英語教材を読み、それについて自分自身の意見をまとめ表現する活動も行った。次に挙げるのは、活動 (活動例 2) と生徒の作品 (資料 2) である。

#### (活動例 2)

1. 読み物教材の内容を把握する。
2. 環境問題について自分の意見や考えを書く。
3. マッピングを参考にし、自分の考えの流れを書く。
4. 整理された流れを基に自分の考えを英語で表現する。



	○自分の考える理想のベッドについて考え、話す。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の理想のベッドの絵を描く。</li> <li>・There構文を用いて自己表現活動を行い、友達に話す。</li> <li>・英語で伝えたことをワークシートに書く。</li> </ul>
2	○例文を提示し、自分の作品を振り返り、より相手にわかりやすい作品に仕上げる。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己表現活動の例文を提示し、自分の作品について振り返る。</li> <li>・自分の理想のベッドについて友達に話す。</li> <li>・英語で伝えたことをワークシートに書く。</li> </ul>

これまでは、絵や写真を見て話を考え条件を付けて（学習したばかりの文構造を必ず1文は入れる。など）、30秒から1分間でパートナーに英語で話し、話した英語をワークシートに書いていた。自分が話した英語に関しては自分の知識の範囲の中で、自分の英文を振り返ることはできていた。ここでは、友達の作品を通して、より良い作品になるためにはどのような英文を付け加えればよいのかをクラス全体で共有することで、色々な意見を聞くことができ、生徒一人ひとりが相手に伝わるように英語で表現することがよりわかりやすいものになるのではないかと考え、この活動を設定した。

まず、生徒は理想とするベッドの絵を描く。描くことで、理想のベッドを容易に想像することができ、また相手に伝える際には、その絵を見せることで、より相手に伝わりやすくなる。次に挙げた資料3が1回目の理想のベッドの説明文である。

Do you like music? Who is your favorite artist? I'm in the chorus club because I like music. And I don't have the piano. So there is a piano in my bed. (1) And there is a TV in my bed. I watch a lot of TV programs. And my bed is very hot. It's good. There is an alarm clock, too. So I can get up early.

(資料3) 理想のベッド（1回目の説明）

次時では、自分の理想のベッドについてパートナーにうまく表現できなかったと自己評価していた友達の理想のベッドについて、どのように言えば良かったのか、また自分ならどこにどのような表現を入れれば、自己評価をより良いものにできるかななどを個人で考え、ワークシートに記入した。(資料5) また、それをクラス全体で共有した。自分以外の人たちの考えを聞くことで、自分のものを見たとき

(1) There 構文を用いて表現できた。	A	B	<u>C</u>
(2) 特にお気に入りのところについて理由や説明が詳しくできた。	A	<u>B</u>	C
(3) パートナーにベッドに関する発音が2文以上できた。	2	<u>1</u>	0

2. パートナーに話したことを書きましょう。

This bed is <sup>トコロ</sup> Tororo's <sup>おなか</sup> stomach. Do you know C

Tororo? I like Tororo. The bed is very <sup>soft</sup> soft. I sleep I can

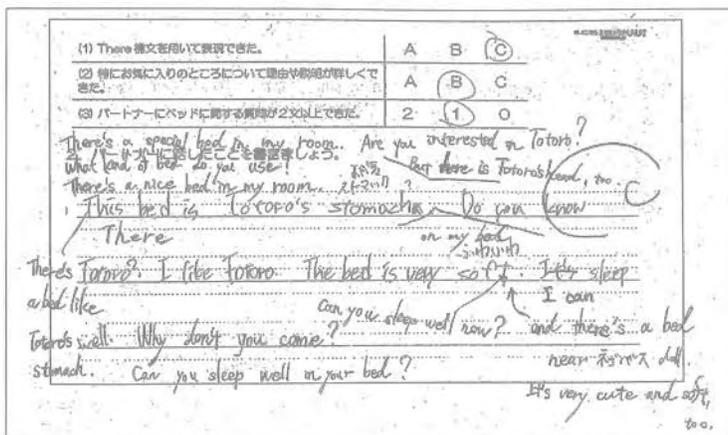
well.

(資料4) 友達の理想のベッド（ワークシート）

に表現の幅がさらに広がり、より明確な表現ができるようになる。さらに、英語で表現することが苦手な生徒にとっては、全体で共有することが次の表現活動へのヒントになっていった。

友達の理想のベッドについて書き込んだ後、1回目とは違うパートナーに理想のベッドについて説明した。資料6は2回目の理想のベッドについて説明した後に、説明したことを思い出しながら、書いたものである。1回目と2回目では同じような言い回しもあるが、聞いている相手がより興味をもって聞くことができるような工夫が2回目の説明ではしてある。例えば、下線部の

(1) である。1 回目の説明では、(1) And there is a TV in my bed. I watch a lot of TV programs. というように、自分の部屋にはテレビがあって、たくさんのテレビ番組を見る。とただの説明でしかないが、2 回目の説明では、(2) And I want to watch many TV programs. So there is a TV in my bed. のように自分がたくさんテレビが見たいからといった自分の思いが英文の中には入っている。他の表現にしても、1 回目と比べて2 回目のほうが聞いていてよりおもしろく、明確になっているのでよりわかりやすいものとなった。



(資料5) より良いものになるため書きこんだワークシート

Do you like music? I'm in the chorus club because I like music. But I don't have a piano in my room. So there is a piano in my bed. I can play the piano. And I want to listen to a lot of music. So there is a music player in my bed. (2) And I want to watch many TV programs. So there is a TV in my bed. It's very nice. My bed is very hot because there is a heater in my bed. Why don't you come?

(資料6) 理想のベッド (2 回目の説明)

(3) 視点③ 自分の思いや考えを相手に伝えるための学習課題の設定

自分の考えや思いを実際に相手に表現するための活動として、2 年生の3 学期に小学生に英語で附属中学校の紹介をした。以下のように計画した。

指導計画 (4 時間)

次	主な学習内容	時	具体的な学習・内容
1	○伝えるために大切なことや、自己目標を考える。 ○グループで附属中学校の紹介についてのテーマを決定する。 ○説明の流れや準備物を考える。	1	・相手に伝えるために大切なこと学習する。 ・小学生に附属中学校の紹介を理解してもらうために工夫することについて学習する。 ・今後の予定を確認し、グループで附属中学校紹介のテーマを考える。 ・小学生が英語を理解するために必要なアイテムを考える。
	○説明文を作成する。	2	・グループで附属中学校の紹介文を作成する。
2	○中学校紹介の練習をする。	3	・グループ内で練習をする。 ・ipadの録画機能を使い、自分たちの姿を見て、客観的に自己評価をする。 ・グループ毎に見せ合い、他のグループから評価してもらう。
3	○小学生に附属中学校の紹介を英語でする。	4	・ウォーミングアップで小学生と中学生で自己紹介をする。 ・小学生に附属中学校を英語で紹介する。 ・小学生の違うグループに附属中学校を英語で紹介する。 ・ふりかえり

まず最初に、より分かりやすく相手に伝えるためにどのような発表をすればよいのか、また相手が小学生の場合を考え、クラス全体で共有した。(資料7)

次に、グループで紹介することのテーマを決定し、どのような流れで説明(言語材料)するのか、またその時にどのようなアイテムや表現(非言語材料)を用いれば、小学生により伝わりやすいのかを考えた。グループの中には、部活動で使うボールや教科を説明するための教科書、行事の写真などを考える生徒もいた。

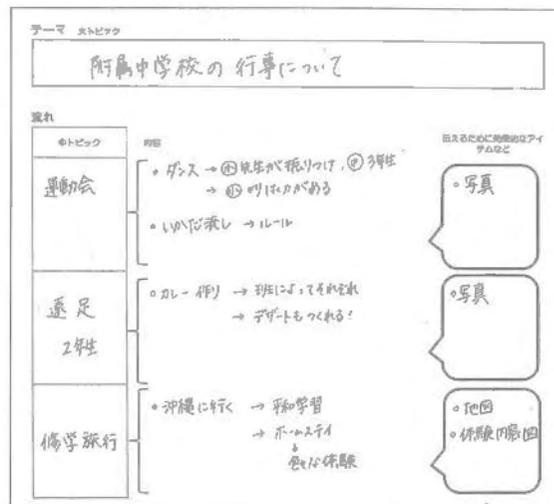
紹介文を英語で書き終え、中学校紹介の練習をした。グループ内で何度か練習をした後、グループ毎にipadで紹介する様子を録画し、それを見て、より良い発表になるように自分たちで話し合い、それを元に再度録画し、振り返る活動を行った。次に挙げるのは生徒の感想である。「プレゼンテーションをしている時、自分としては相手の方を見たり、大きい声でできていると思ったけど、ipadの映像を見てみると、視線が下にあったり、声が小さかったりしました。本番ではもっと相手を意識してゆっくり話したり、大きめの声で附属中学校の良さを伝えられたら良いと思います。本番に向けて課題が見つかったので、小学生が喜んで聞いてくれるようにしっかり練習をしたいと思います。」このように自分たち自身の姿を客観的に振り返ることで、自分が思う自分と実際の自分に差があり、よりよいプレゼンテーションにしようと意欲をもって練習に取り組むようになっていった。

中学校紹介当日、ウォーミングアップで小学生と中学生で自己紹介をし、あらかじめ作っていただいた名刺交換をした。その後で、グループに分かれ、小学生に附属中学校の紹介を5分間行い、グループを替え再度中学校紹介を行った。最後に、ふりかえりを行った。小学生からは「自分のことを聞いてくれたり、英語での質問に答えたら褒めてくれて、嬉しかったです。」や「中学校の知らないことを知ることができて楽しかったです。」「中学生の話す英語で分からないこともあったけど、中学生の英語の発音が上手ですごくいいと思いました。」という感想をもらった。中学生は「自分が伝えたい英語を伝えることができない場面があり、少し混乱しましたが、言い方をかえたら小学生に伝えることができました。自分の英語が伝わっていると思うととても嬉しかったです。」「実際に小学生を前にすると、練習の時の中学生の反応と違ったので、対応に少し戸惑いました。色々な人ともっと話すことができれば、こういう時にでも戸惑わず、対応できると思いました。そういう機会があれば、ぜひ英語で話してみたいと思いました。」という感想を書いていた。また、初めて練習のために録画した映像と小学生の前で発表したプレゼンテーションの映像を比べてふりかえりも行った。2つの映像を比較することで、表現面(非言語材料)の声の大きさや抑揚、話す速さ、話し手の表情など相手に合わせて伝える工夫ができていたなど、自分自身の表現力があがったと実感できた生徒も多かった。

〈構成面〉言語材料

- ・順序立てて言う。
  - ・経験や理由など具体例を言うにより詳しくなる。
  - ・簡潔な英語で言う。
- 〈表現面〉非言語材料
- ・声の大きさ・抑揚
  - ・話すスピード(ややゆっくり)
  - ・原稿を見ずに相手を見る。
  - ・必要に応じて絵などを使う。
  - ・ジェスチャー
  - ・しっかりと口を動かして話す。

(資料7) 相手に伝えるための工夫



(資料8) 話の流れや準備物を記入するワークシート

We're going to talk about Fuzoku junior high school events. Fuzoku junior high school has a lot of events. We'll talk about three events.

First, sports day. Sports day is in September. We dance. It's more difficult than elementary school's dance, but it has a lot of power and is exciting. Seventh graders play Ikadanagashi. We run on people's back. It's cooperation with your class. You have to try hard.

Second, field trip. Eighth graders go on a field trip and make curry rice. Each group makes many kinds of curry rice. We can make dessert, too.

Third, school trip. Ninth graders visit Okinawa in April. It has a homestay. We enjoy it, too. Let's enjoy school life together.

Do you have any questions?



(資料9) 附属中学校の紹介文 (行事について)

### 3. まとめ

#### (1) 成果

1年間を通して、生徒が英語を聞いたり、話したり、書いたりする活動をできるだけ多く取り入れてきた。また、ただ単に英語で表現するのではなく相手により分かりやすく興味をもって聞いたり、読んだりしてもらうための工夫についても考えてきた。そうする中で、生徒たちの英語で自分の思いや考えを相手に応じて発信する力がついてきたと感じる。また、生徒たち自身も英語で表現したことが相手に伝わることの嬉しさを感じ、表現することを苦手と感じる生徒が減った。さらに、表現活動を増やすことで、生徒は英語の使用場面に合わせて既習の文構造や句句を上手に使えるようになっていった。

#### (2) 今後の課題

今回の研究では、相手は簡単な質問に答える程度で、自分の考えや思いを相手に伝える活動をしていった。しかし、実際に誰かとコミュニケーションをとろうと思うと、自分の質問や意見に対しての相手の反応として自分が予測できるような(YesやNo程度の)簡単な答えでは終わらないことも出てくる。つまり、相手がいなければ、話が展開していかない活動を取り入れていく必要があると考える。相手の考えや思いを聞いて、それに反応し、また自分の考えや意見を言うことができるようになれば、英語を使ってコミュニケーションをとることが可能になる。今後はチャットやディベートのような相互の考えや思いを伝えていくことのできる活動が重要となると考える。

#### 参 考 文 献

- ・伊東治己編著(2008)『アウトプット重視の英語授業』教育出版
- ・文部科学省(2008)『中学校学習指導要領解説 外国語編』
- ・「TOEFL結果」〈[www.ets.org/Media/Research/pdf/TOEFL-SUM-2010.pdf](http://www.ets.org/Media/Research/pdf/TOEFL-SUM-2010.pdf)〉

(わさき きみよ 英語科 [k.wasaki@edu.shimane-u.ac.jp](mailto:k.wasaki@edu.shimane-u.ac.jp))